

新総合計画策定懇話会 第3回経済部個別テーマ

「道路・鉄道・港湾整備、地域交通、まちづくり、けいはんな学研都市関係」について

2018年11月16日 中川 大

●全体

・全体として無難で良い方向だと思う。ただ、将来に向けて大きな発想転換を伴うようなビジョンが感じられない。

「新規投資」と「維持管理・長寿命化」のウエイト

「道路整備」と「鉄道整備」のウエイト

「拡大型都市」から「集約型都市」への構造改革

などにおいて、大きな発想転換をしている国は多い。日本の他の地域とは違う都市づくりの理念を打ち出してはどうか。

・SDGsについては基盤整備のなかでも念頭に置いている必要

「3健康・福祉」、「4教育」、「8持続可能な経済成長」、「9強靱なインフラ」、

「11持続可能な都市」などのゴールと関連。

9だけが基盤整備の目標ではなく、他のゴールの達成に貢献する視点。

●道路

・主に幹線道路について述べられているが、生活道路を含む一般道路、特にメンテナンスへの展望が必要。

舗装、ガードレール・分離帯等の設備、歩道ブロック、排水施設、道路標識、植樹帯等。現在の水準を下げないようにするための方策や長寿命化等によるライフサイクルコストの管理など。

市民や国内外からの来訪者が目にするのは一般道路。その質が都市の質を現す。

・都市計画道路に関する記述は？ 未着手・未整備の都市計画道路に関する展望・方針。

自動車が増える時代に計画された都市計画道路への対応方針。

●鉄道

・幹線鉄道に関しては、内容はよいと思う。実現することが重要。

・在来線に関しては、複線化率等の施設整備自体を目標とするだけでなく、それによって実現されるサービス水準を目標に。

例えば、どのような運行頻度や所要時間を実現できるのかなど。

・府内全238駅のバリアフリー化は大変興味深い。実現すれば日本初？

・京都府は鉄道整備に力を入れてきていると評価できるが、それでも欧州各国の地方自治体が鉄道利便性の向上に投資しているレベルには遠く及ばない。鉄道への投資水準は、都市づくりの方向性とも関連して将来に向けての重要な考慮項目。全国の自治体の先導モデ

ルとなる取り組みを。

- ・ 駅舎に関する記述もあるがスマートステーション化など、技術発展を活かした取り組みもこれからは進展すると考えられる。

● 港湾

- ・ 京都舞鶴港の大きな飛躍の可能性として、シベリア鉄道の活用。

ロシア・欧州方面への貨物輸送は、シベリア鉄道経由の方がスエズ運河経由よりずっと短い。日本海沿岸港ではこれに注目してルート開拓を進めているところもある。

- ・ クルーズ船 20年後の年間50隻は目標が小さいのでは。
- ・ 港を取り込んだ都市づくり。海に面する舞鶴市、宮津市、京丹後市、伊根町。

● 地域公共交通

- ・ 現在の貧弱な地域公共交通政策の延長のような印象。

欧州等では自治体が積極的に公共交通の利便性向上に投資して、生活水準全般の向上だけでなく、高齢者の通院・買い物等による社会参画の推進、児童・生徒への教育機会の提供、環境負荷の低減、観光振興、中心市街地の活性化などに対して大きな効果をあげている。将来に向けてのサービス水準向上に対する記述を。

(これらの内容は基盤整備としてではなく「生活」の分類に入れた方がよいのでは)

● まちづくり

- ・ 方向はよいと思うが、実現に向けての手段を示す必要。コンパクトアンドネットワーク。立地適正化計画の策定はよいが、それで大きく変わる可能性は小さい。
- ・ 各都市の中心市街地の活性化に向けてのビジョンを示す必要。人と公共交通を中心としたまちづくりへの大きな方向転換を目指すべき。

● 関西文化学術研究都市

- ・ 現在の貧弱な公共交通では都市としての将来の発展はない。鉄軌道もしくは高度なバスシステムは必須。
- ・ 商業やリクレーション施設等に関する記述がほとんどなく、住んで楽しいまちになるとい実感がわかないのでは。